

嶋崎大使のヨルダン赤新月社・緊急対策センター開所式への出席

12月13日、嶋崎大使は、我が国のIFRCへの支援により、ヨルダン赤新月社に設立された緊急対策センターの開所式に出席し、スピーチを行いました。

我が国は、令和元年度予備費による新型コロナウイルス拡大感染防止のための緊急支援により、IFRCが実施する「新型コロナウイルス拡大感染防止のためのイラン及び周辺の途上国における緊急支援」に対し、約2,400万ドルの支援を行っており、そのうち、75万ドルがヨルダンに割当てられ、脆弱な家庭への食料・医療物資の支給、公立学校での水・衛生(WASH)活動、ボランティア活動支援、今回の緊急対策センターの開設等が実施されています。

同緊急対策センターは、ヨルダン赤新月社が、現下の新型コロナウイルス危機や今後の有事の際に、関係機関との連絡調整を一層緊密にするとともに、平時には、今後起こりうる非常事態に係る情報収集を行い、有事に備えるための機関として利用される予定です。

式典では、嶋崎大使の他、ハディッド(Dr. Mohammed Al Hadid)ヨルダン赤新月社代表及びエトウィル(Dr. Muftah ETWILB) IFRCヨルダン代表が挨拶を行いました。式典に出席したIFRCやヨルダン赤新月社の関係者からは、我が国の支援に対する謝意が繰り返し表明され、ハディッド代表からは、同緊急対策センターを、“Tokyo Operation Room”と名付けたいとの話もありました。



嶋崎大使によるスピーチ



テープカット